

用語解説

ICT (Information and Communication Technology)

情報・通信に関連する技術一般の総称。従来用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられる。ICTは、多くの場合「情報通信技術」と訳される。ITに加えて、「コミュニケーション」(共同性)が具体的に表現されている点に特徴があり、「情報コミュニケーション技術」と訳されることも多い。ICTとは、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現であるといえる。

IT (Information Technology)

一般には、情報技術のことを指す言葉である。ただし、様々な意味で用いられることが多く、情報通信分野の基礎技術から、応用技術の範囲にまで及ぶ。また、パソコンやインターネットを代表とするネットワークを活用すること、コンピュータやデータ通信に関する技術のことを総称的に表す語でもある。

AT (Assistive Technology)

支援技術をさす。コミュニケーション用の支援的な生産品と用具(福祉用具)が取り上げられる。コミュニケーション用の生産品として、コンピュータやVOCA等がある。コミュニケーションエイド等の支援技術を活用した肢体不自由児のコミュニケーション指導、AACの技法や支援技術を活用した自閉症児のコミュニケーション指導などの実践が行われている。

AAC (Augmentative and Alternative Communication)

拡大代替(補助代替)コミュニケーションと呼ばれ、障害のある人の自立を支えるために、手段にこだわらないコミュニケーション支援が研究されている。AACでは多面的アプローチにより、個人の全てのコミュニケーション能力の活用を図る。AACには、残存する発声、あるいは会話機能、ジェスチャー、サイン、エイドを使ったコミュニケーションが含まれるとされている。

VOCA (Voice Output Communication Aids)

携帯型会話補助装置、音声出力型コミュニケーションエイドと呼ばれ、音声を出力することのできるコミュニケーションのための補助機器のことをさす。簡単なスイッチ操作であらかじめ登録しておいた音声を出力することができるので、周囲の人に伝わりやすく、伝達性が高くなるという特徴をもつ。

VOCAの種類としては、1つのスイッチで発信するもの、複数のスイッチで選択することのできるもの、タッチスクリーンのものでメッセージを変えられるもの等、用途によって様々なものが導入可能となっている。

シンボル

サウンズ・アンド・シンボolz

32個のシンボルで構成され、1個のシンボルにはその基本概念から派生する多くの語彙を持っており、文法的な規則よりも簡単な約束事によりその意味を大切にしているコミュニケーションシンボルとなっている。

PCS

語彙数は市販されているコミュニケーションシンボルの中では最も多い。人物、名詞、動詞、状態語、会話用語、その他の6つのカテゴリごとに分けられており、絵は線画で描かれ、絵だけでその概念を表しきれない場合は、文字を用いたり手話の表現をそのまま線画で表現したりしているのが特徴となっている。また、コミュニケーションシート作成を支援するソフトウェア「ボードメーカー」がある(49,800円(Win版))。

P I C

音声言語や文字の使用・理解が困難な人のために、「絵単語や表意文字によるコミュニケーションの手段」として考案された。他の図形シンボルに比べて絵柄が洗練されているため、認識が容易である。また、生活に密着した語彙が豊富であるため、見た人にとっても意味が理解しやすい。そのため、P I Cに良く似たピクトグラムは非常口のマークや説明書、注意書き、建物の案内板などさまざまな場所で用いられている。

また、約1,600個のP I Cシンボルから必要なシンボルを簡単に検索し、シンボルの数、大きさ、並べ方を自由に選択し、簡単に印刷ができるソフトウェア「ピクトプリント」がある(10,290円)。

この他、音声による会話が困難な人の会話を補助するツールとして、「P I C O T o n W e b」がインターネット上に公開されている。これは、パソコンのブラウザに表示された図形シンボル(アイコン)をマウスでクリックすると、これに対応する音声メッセージが出力されるもので、図形シンボルの種類や配置は、利用される方の好みに合わせ、自由に選択・レイアウトすることが可能である。

また、毎日の生活の中で自分の意思や感情を相手に伝えるための610語の絵記号を収めたハンディタイプの冊子「P I C O T コミュニケーションブック」がある(500円)。

P E C S (ペクス)

絵カード交換方式のコミュニケーションシステム。応用行動分析の一部としてとらえられており、応用行動分析の中で、絵カードを使ってのコミュニケーションに特化したプログラムをさす。自閉症の子ども向けのプログラムが作られている。

ICT活用ガイドブック・資料編

事例編で使用したソフトウェア一覧



事例	ソフトウェア名	製造・販売元	U R L
1・2・3・4・7 11・16・19	PowerPoint2003	マイクロソフト株式会社	http://office.microsoft.com/ja-jp/
6	はっぴょう名人	ジャストシステム	http://www.justsystems.com/jp/
10	IPtalk	栗田茂明	http://iptalk.hp.infoseek.co.jp/
13	PC-Talker	高知システム	http://www.aok-net.com/index.htm
15	そらクリック	SORA有限会社(休業中)	https://sites.google.com/a/sora-art.jp/www/
15	ぱそこんキッズキー	株式会社バンダイ・ 株式会社パッファロー共同開発	http://pckids.jp/
15	ちびっこくらぶ	株式会社かくげい	http://www.gakugei.co.jp/
18	Lancaster	MASATO(須藤正人)	http://www.sutosoft.com/room/
18	ALTAIR for Windows	日本障害者リハビリテーション協会	http://www.normanet.ne.jp/~altair/
19	Keynote	アップルジャパン株式会社	http://www.apple.com/jp/
19	GarageBand	アップルジャパン株式会社	http://www.apple.com/jp/
20	SMART Notebook ソフトウェア	日本スマートテクノロジーズ株式会社	http://www.smartboard.co.jp/
21	Adobe Flash CS3	アドビ システムズ社	http://www.adobe.com/jp/

書籍名、価格、ソフトウェア名、製造・販売元、URLは平成22年1月現在